

姥沢右俣

一九七八年九月三日

◆天気(曇)

この沢は大倉川の支流の一つで、谷地平へ下る途中左手に見ることが出来る。私達三名は谷地平小屋にて小休止したのち、ワラジをつけて出発する。最初から単調な沢で、二〇分位歩くと一・五段位の滝が現われるが、あとはまた平凡である。しかし、イワナや山菜には恵まれている。一〇時四五分沢終了。一五分で登山道に出る。

(記・)

(タイム)

谷地平小屋九・二〇―沢終了一〇・四五―登山道一
一・〇〇―姥ヶ原二一・一一〇

姥沢左俣

一九七八年九月三日

◆天気(曇)

姥沢左俣には滝がなく、単調な沢であった。大倉深沢とよく似た感じで、フキが多く、イワナの姿もたくさん見かけた。沢の終わりからやぶこぎ二五分くらいで大倉深沢へ出る。

(記・)

(タイム)

廻行開始九・一〇―沢終了一〇・三〇

鷲ヶ沢(下降)

一九八〇年十月十二日

◆天気(曇)

浄土平から駕籠山稲荷を経由して鷲ヶ沢まで歩く。十月も半ばとなり紅葉がきれいだ。登山道が鷲ヶ沢に突き当たったところには三つの小滝(五段・三段・四段)がある。そして登山道は沢の中に消えている。良く見ると石に黄色いペンキで「これより四〇〇段沢下り」と書かれていた。

一五分位下ると登山道が沢より左方にそれていく。この下はすっぱり切れ落ちた滝。濃いガスがかかっている。落差がわからず不気味である。慎重に右岸を捲きながら

F2一五の直下に出る。このすぐ下もまた滝である。ガスが濃く先の方は見えない。右岸を捲き、最後はアツプザインで沢に下る。三〇位の落差がありそうだ。この先は傾斜もゆるやかになり岩がゴロゴロしている。一一時四五分、大倉川に着く。(記・~~キ~~)

〔タイム〕

浄土平九・四五―鷲ヶ沢出合一〇・一〇―大倉川一
一・四五

中津川

一九七七年八月二十七日～二十
八日

◆八月二十七日(天気・晴時々曇)

中津川沿いの車道を少し歩いて議場部落方面への分岐、登山計画書のポストのある所から沢に入る。きれいな水である。プールを二つ越えたあたりから変わった形の廊下が始まる。沢全体の形がまるでナベ底のようで、その最低部が水流で深くえぐられている。左あるいは右岸の側壁にはホールドらしいものもほとんどない。滝は一層から二層のが三つあるだけであるが、白滑八丁とよ



中津川・神楽滝

ばれるなかなかの難所だ。バランスよくへつってゆくが、ひと思いに泳いでやろうかという気にさえなる。四〇分かって突破する。ここから魚止の滝(F1)までは簡単な河原が続く。途中イワナの姿を見たり、クマの足跡をみかける。七時一〇分魚止の滝到着。大きな釜と切り立つ左右の壁が印象的である。右岸の水際をへつって落口まではゆけるが、その先が登れる自信がなく、戻って左岸を高捲きする。小さな廊下を越えるとまた平凡になる。堰堤を越えしばらくゆくと銚子口。右岸から姥沢が滝をかけて合流し、本流は廊下となって深い釜が連続し

